

頂点咲きのレモンイエロー系コギク品種「常陸サマーレモン」の育成と特性		
[要約] レモンイエロー系の黄色のコギク品種「常陸サマーレモン」を育成した。草姿はまとまりのよい頂点咲きで、7月出荷のコギクとして有望である。		
農業総合センター 生物工学研究所・園芸研究所	成果区分	普及（普及）

1. 背景・ねらい

茨城県のコギクは、県内の切り花出荷品目では第1位、全国的にも栽培面積が第2位、出荷量が第3位のシェアを占め、重要な花き品目となっている。生産現場では、7月東京盆、8月旧盆、9月彼岸の物日の出荷に対応するため、100を超える品種が栽培され、栽培管理の煩雑化や適品種の選定が課題となっている。また、民間種苗会社のロイヤリティ制度が種苗費を高騰させている現状もあって、生産現場からは新品種育成の要望が高い。そこで、市場から求められている頂点咲きの草姿で、物日出荷に対応できる県オリジナル品種を育成する。

2. 成果の内容・特徴

- 1) 平成14年に「白鳥」を種子親とし、夏系コギクの混合花粉による交配を行い、得られた71の実生個体から選抜した。
- 2) 花色はレモンイエロー系で、日本園芸植物標準色票では明黄 2506～明緑黄 2705 の色合いを呈する（表1、図1）。
- 3) 季咲きの開花時期は7月中旬で、草姿は生産者や市場・花束加工業者が要望する、まとまりのよい頂点咲きである（表1、図1）。切花長、切花重、節数は「ホタル」並で、分枝数は「ホタル」や「みさと」よりも多い。着蕾数は「ホタル」や「みさと」よりやや多い（表1）。
- 4) 現地適応性試験における生産者評価は、7月出荷作型では切花長や花質等の評価が高い（表2）。
- 5) 市場評価は、花色、草姿などが中～良好で総合評価はやや良である。なお、花束加工業者からはレモンイエロー系の色で良いという評価がある（データ省略）。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) 季咲き栽培においては、7月出荷作型（3月下旬から4月上旬の定植で、降霜害がなくなるまでのトンネル栽培）が適する。
- 2) 平成22年3月2日に品種登録された（登録番号 第19095号）。

4. 具体的データ



図1 コギク「常陸サマーレモン」

表1 コ小ギク「常陸サマーレモン」の特性（試験年次：平成17年～19年、7月作型）

品種 系統	花色 ¹⁾	採花日 (月.日)	切花長 (cm)	切花重 (g)	節数 (節)	分枝数 (本)	着蕾数 (輪)	花径 (cm)
常陸サマー レモン	明黄 2506～ 明緑黄 2705	7.17	91.4	70.5	42.5	15.1	22.1	4.1
ホタル	明黄 2505～ 明緑黄 2705	7.20	99.0	79.5	41.1	10.6	19.8	4.2
みさと	明黄 2506～ 明緑黄 2705	7.19	65.1	49.3	27.9	8.3	20.3	4.6

¹⁾ 日本園芸植物標準色票による。

表2 コギク「常陸サマーレモン」の生産者評価（平成17年）

作型	総合評価	収量	作りやすさ	病虫害発生	切花長	花質	葉色	ボリューム
7月出荷	4.0	4.0	3.5	3.5	4.5	4.0	4.0	4.0

注) 生産者2名による現地適応性試験結果。総合評価・作りやすさ・切花長・花質（色、形、大きさ）・葉色・ボリューム；1：極劣，2：劣，3：中，4：良，5：極良。収量；1：極少，2：少，3：中，4：多，5：極多。病虫害発生；1：甚，2：多，3：中，4：少，5：無。

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

- 1) 本県コギク産地活性化のためのブランド品種の育成・平成14～平成19年度・生物工
学研究所果樹・花き育種研究室
- 2) 新品種育成普及促進事業・平成6年度～・生物工学研究所果樹・花き育種研究室
- 3) 新品種育成普及促進事業・平成13～平成18年度・園芸研究所花き研究室